

慢性心不全に合併したうつ病と、運動介入に関する研究

研究分担者 木村宏之

名古屋大学大学院医学系研究科細胞情報医学専攻脳神経病態制御学講座精神医学分野 講師

研究要旨

研究目的: 本研究では、入院時にスクリーニングされた抑うつと入院前の機能的制限に関連が認められるとの仮説について、再検討することを企図した。

研究方法: 2011年7月から2013年8月までの期間、当院にて急性増悪により入院加療したCHF患者のうち、研究参加に同意し、40歳以上のものを対象とした。評価尺度として、抑うつはPatient Health Questionnaire-9 (PHQ-9)、機能的制限はPerformance Measure for Activities of Daily Living-8 (PMADL-8)を用いた。

結果: 入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連について、有意な関連は認められなかった。

まとめ: 当院における、入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連は認められなかった。今後、入院時の抑うつに影響を及ぼす他の因子について検証を継続する予定である。

研究協力者氏名・所属施設名及び職名

足立康則 名古屋大学大学院医学系研究科 博士課程

佐藤直弘 名古屋大学大学院医学系研究科 博士課程

山内 彩 名古屋大学大学院医学系研究科 博士課程

A. 研究目的

慢性心不全（Chronic Heart Failure：CHF）患者のうつ病有病率は高く、うつ病の合併はCHFによる再入院率や死亡率増加との関連が認められるため、早期発見・早期介入が重要と考え、当院において入院時に抑うつのスクリーニングを行っている。また、CHFの病態特性から日常生活動作に対する困難感(機能的制限)を伴うが、機能的制限は再入院の危険因子であると共に、退院後の抑うつとの関連が報告されている（J Card Fail.2011）。そこで、本研究では、入院時にスクリーニングされた抑うつと入院前の機能的制限に関連が認められるとの仮説について、再検討することを企図した。

B. 研究方法

2011年7月から2013年8月までの期間、当院にて急性増悪により入院加療したCHF患者のうち、研究参加に同意し、40歳以上のものを対象とした。評価尺度として、抑うつはPatient Health Questionnaire-9 (PHQ-9)、機能的制限はPerformance Measure for Activities of Daily Living-8 (PMADL-8)を用いた。

(本研究は、名古屋大学大学院医学系研究科及び医学部附属病院生命倫理委員会の承認内容に則り、文書による説明と同意を得た患者を対象として、個人情報の保護に配慮して、遂行している)

C. 研究結果

対象者25名(男性22名、女性3名、平均年齢67.4歳)に関して、入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連について統計的検討を行った。対応のないt検定を用いて、PHQ-9<10群とPHQ-9 10群の2群間のPMADL-8得点の平均差の検定を行ったところ、有意差は認められなかった。また、PHQ-2 プラス群とPHQ-2 マイナス群の2群間においても、対応のないt検定を用いてPMADL-8得点の平均差の検定を行ったところ、有意差は認められなかった。

D. 考察

入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連について、現時点で有意な関連は認められなかった。本研究には、サンプルサイズの問題や入院時から抑うつ評価時までの期間がサンプルにより異なること、また当院の診療特性のサンプリングバイスなど幾つかのリミテーションがある。今後、CHF患者の入院時の抑うつに影響を及ぼす因子について、機能的制限に加えて、

Brain Natriuretic Peptide (BNP) 値や心臓超音波検査など心不全状態を示す要因なども合わせて検証を継続する予定である。

E. 結論

当院における、入院時の抑うつと入院前の機能的制限との関連について、現時点で有意な関連は認められなかった。今後、入院時の抑うつに影響を及ぼす因子について、機能的制限に加えて、様々な要因を加えて検証を継続する予定である。

F. 健康危険情報

本研究で実施された質問紙や構造化面接に伴う有害事象は認められなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第70回日本循環器心身医学会総会

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし